



環境報告書 2025

(2024 年度実績)



株式会社 駒井ハルテック





目 次

会社方針	1
● トップメッセージ	1
● 経営理念	2
● 環境・品質方針	2
目標と戦略	3
● サステナビリティ基本方針とマテリアリティ	4
● 会社年度方針と環境年度目標	5
気候変動への取り組み	7
● 気候変動への取組	8
● 再生可能エネルギーの普及に向けた取組(1) ～ 環境インフラ本部 ～	10
● 再生可能エネルギーの普及に向けた取組(2) ～ 洋上風車タワー部 ～	13
● 再生可能エネルギー発電事業	16
● 温室効果ガス排出量の算出と削減	18
環境活動報告	21
● 環境との調和	22
● 橋梁建設(架設)現場での環境に対する取組	27
● 温室効果ガス排出量と使用エネルギー量の推移	31
● 環境製品への取組(実績紹介)	32
● 主要事業所(サイト)における環境マネジメントシステムへの取組	33
会社概要	37
● 会社概要	38



富津工場



和歌山工場



トップメッセージ



『中期経営計画 2023』最終年度 「一人一人が利益を追求する変革の当事者たれ！」

2024 年度のわが国経済は、設備投資を中心とした内需の持ち直しとインバウンド消費がけん引し、緩やかな回復基調で推移しました。一方、物価高に加え、人件費や物流費の高騰が長期化していることから、人手不足とコスト高により、特に中小企業においては経営が圧迫される状況にありました。

このような事業環境の下、当社では、2024 年度の連結売上高が総額 405 億円と前年度を約 3 割下回る大幅減収となり、営業利益は前年度約 6 割減の 2.8 億円に留まり、2025 年 6 月 13 日には東京証券取引所スタンダード市場への市場区分変更を行いました。

2025 年度は『中期経営計画 2023』の最終連結会計年度に当たりますことから 2025 年度のスローガンを昨年度に引き続き「一人一人が利益を追求する変革の当事者たれ！」とし、利益追求と社会貢献、企業価値の向上に邁進する所存であります。

当社の主力事業は橋梁事業、鉄構事業、環境インフラ事業の3事業になります。

橋梁事業においては、今後も増え続ける橋梁の老朽化に対応すべく、新設橋梁のみならず、道路橋・鉄道橋の補修工事も手掛けています。

鉄構事業においては、都内を中心に数々の高層ビルの鉄骨製作・現場施工に参画し、現在建設中で完成すれば日本一の高さとなる「Torch Tower」にも参画しています。

環境インフラ事業では、洋上風力発電事業に風車タワー（最大直径 10m）の生産工場としての参画を図るべく、2026 年度のサプライヤ認証および生産開始を目指し、富津工場において生産設備の構築を進めながら試験施工を行っています。

また、建設後 20 年を超える国内陸上風車がリプレースの時期を迎え、その数は年々増え続けます。このリプレースに参画すべく、陸上風車の主力製品である KWT300(300kW)に加え 1MW 風力発電機も当社のラインナップに加えるため、こちらも認証の取得手続き、生産ラインの整備、サプライヤの開拓を進めています。

昨年度は高知県長岡郡大豊町に四国電力・大豊風力発電所として当社 KWT300(300kW)風車3基の建設を行いました。年間の発電電力量は約 230 万 kWh(約 730 世帯分)、年間 CO2 削減量は約 1,000t になります。

今後も橋梁事業、鉄構事業を収益の軸として、再生可能エネルギーを主とした環境インフラ事業を伸ばすことにより「社会に貢献する企業」として企業価値の向上を図ってまいります。

取締役社長 中村 貴任





経営理念

『高い技術力で 夢のある社会づくりに貢献する』



環境・品質方針



基本理念

当社は、「高い技術力で、夢のある社会づくりに貢献する」との経営理念の下、以下の活動を通して社会的責任を果たす。

当社は、国民の生活基盤となる橋梁、鉄骨、風車などの製造、建設事業を通じて社会資本の整備に貢献しつつ、生産、建設過程における使用エネルギーや排出物(CO₂、産業廃棄物など)等の環境負荷要因の低減に取り組む。



方 針

1. 環境・品質マネジメントシステムの実効性を高める。
2. 「顧客満足」をいただける製品の提供とサービス向上に努める。
3. 環境負荷低減を目指した企業活動を展開する。
4. コンプライアンスおよび内部統制システムの成熟に努め、責任ある企業活動を展開する。



目 標 と 戦 略





サステナビリティ基本方針とマテリアリティ



サステナビリティ基本方針

経営理念の下、「持続可能な社会の実現」と「企業の持続的成長」を両立させるサステナビリティ経営に取り組み、中長期的な企業価値向上を実現させるために、その基本方針を以下のように定めています。

地球と社会に貢献する企業を目指します。

1. 地球環境の保全に取り組み、将来世代へ希望を繋ぎます。
2. 社会インフラを提供し、安全で安心な生活を支えます。
3. 人財と技術を礎に、社会課題の解決に取り組みます。
4. 高い企業倫理と企業統治により、透明公正を確保します。



マテリアリティ

サステナビリティ基本方針に基づき、7つのマテリアリティを特定しています。

1. カーボンニュートラル社会の実現

- ・CO₂排出削減
- ・再生可能エネルギー施設の拡大



2. 自然災害への対応強化

- ・災害復旧対応力の強化
- ・協力会社を含む BCP 構築



3. 安全安心の社会インフラづくり

- ・品質確保(長寿命、保全更新へ対応)
- ・責任ある供給、効率的供給の実現



4. 新技術開発

- ・高難度物件への取り組み、高付加価値の提供
- ・新たな社会ニーズへの対応、資源の効率的消費



5. 人財開発

- ・人財育成(キャリア支援)
- ・ダイバーシティ&インクルージョン



6. 労働安全衛生の確保

- ・災害の撲滅
- ・労働環境の整備、働き方改革推進



7. 企業活動における透明性と公正性の確保

- ・コンプライアンスの徹底、人権尊重
- ・ガバナンス、リスク管理の充実





会社年度方針と環境年度目標



会社年度方針(2025 年度)

『一人一人が利益を追求する 変革の当事者たれ!』

1. 経営資源の最大活用を見据えた受注活動の展開
2. 安全と品質をベースに、業務改革(業務効率改善)を進め、収益力を向上
3. 人的資本への取り組み強化による人財の活性化
4. サステナビリティ経営の本質を理解し、マテリアリティの実践による体制強化



環境年度目標(2025 年度)

1. 環境負荷の低減:エネルギー使用量管理、低減
2. 環境側面管理(サイト環境側面管理表の履行管理)
3. 温室効果ガス排出量の算定(精度向上)と削減検討(TCFD への取り組み)
4. 産業廃棄物排出量の削減目標値設定
5. ごみ減量(リデュース)の目標値設定
6. 地域貢献活動(地域交流、近隣清掃など)







気候変動への取り組み





気候変動への取組

近年、気候変動への取組は企業において不可欠な、重要な課題の一つと捉えられています。当社において、社会インフラを担う企業として、災害に強いインフラ設備の構築や橋梁の災害復旧をはじめ、再生可能エネルギー事業等を通じ、持続可能な社会の実現に取り組んでいます。

再生可能エネルギー事業では、2006年に富津工場にプロトタイプの300kW風力発電機KWT300の1号機を設置したのを始めとし、離島や山岳地などの厳しい条件にも対応可能な国産中型風車として台風仕様、寒冷地仕様などのラインアップをそろえてきました。現在はそのスケールアップ機として1MW風力発電機も開発中です。

気候変動に対する社内体制としては、2022年2月に、気候変動対策をはじめとしたサステナビリティへの取組を推進し、その統括管理を行うことを目的として、「サステナビリティ委員会」を設置しました。また、2023年5月にはGXリーグ※1への参画を、8月にはTCFD※2提言に基づく情報開示を行いました。(賛同表明は3月)。

富津工場では、当社の鋼構造物製造の長年の経験に基づく強みを活かし、洋上風車タワー生産設備の構築に取り組んでいます。富津工場の一部をレイアウト変更、新規設備を導入し、溶接技術、非破壊検査技術、塗装技術の開発を行うことで、年間20～30基の供給を目指しています。

今後は、これらの活動を通じて、気候変動による経営リスク・機会の特定と対処、排出量の把握と削減、およびインフラ環境事業成長加速を推し進めることにより、脱炭素社会に貢献していきます。

※1 GXリーグ <https://gx-league.go.jp/>



GX(グリーントランスフォーメーション)に取り組む企業が、同じくGXの取り組みをおこなっている官公庁・大学とともに、経済社会システムの変革や新たな市場をつくるための実践をおこなう場。GXへの挑戦を行う企業が、排出量削減に貢献しつつ、外部から正しく評価され成長できる社会(経済と環境および社会の好循環)を目指す。

※2 TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース) <https://www.fsb-tcfid.org/>



G20の要請を受け、金融安定理事会(FSB)が2015年にTCFDを設立。2017年に気候変動によるリスクや機会を財務情報として開示する枠組みを発表し、世界中の企業がその提言に沿った情報開示を行ってきた。TCFDは2023年10月に解散したが、その提言は現在も有効であり、ISSB(国際サステナビリティ基準審議会)に引き継がれている。

◎環境をめぐる動きと当社環境事業について

京都議定書発効

2005

当社の主な環境事業

2006

富津工場に風車1号機設置



国際再生可能エネルギー機関
(IRENA) 発足

2009

厳しい地形、気象条件を克服した
風力発電機「KWT300」の開発を軸に、
発電事業として安定した運用を
行っています！

2011

環境報告書発行開始

スカイソーラーシステムはハイポール式、
ケーブル式の2タイプでそれぞれの土地に
合わせた最適設計を実施しています！

2014

-40℃対応寒冷地仕様風車建設

パリ協定採択

2015

ケーブル式スカイソーラー開発

パリ協定発効

2016

テクニカルセンターにスカイソーラー設置

TCFD 最終報告書公表



2017

2018

台風仕様風車建設

2019

-50℃極寒冷地仕様風車建設

日本のNDC
(国が決定する貢献) 決定

2021

気象変動問題は、マテリアリティの
一つとして、サステナビリティ委員会で
議論が行われます！

2022

サステナビリティ委員会発足
富津工場の屋根にソーラーパネル設置

GX リーグ本格的な活動開始



2023

TCFD 提言に基づく情報開示
GX リーグへの参画

2024

洋上風車タワー製作設備構築



カーボンニュートラル社会を目指す！

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



13 気候変動に
具体的な対策を





再生可能エネルギーの普及に向けた取組(1) ～ 環境インフラ本部 ～



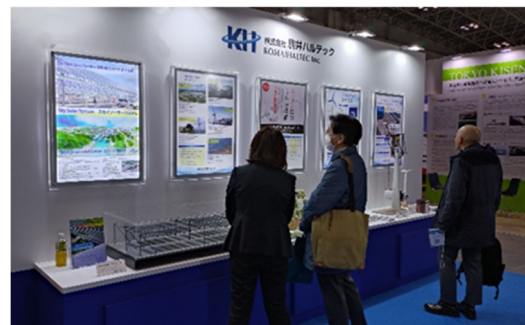
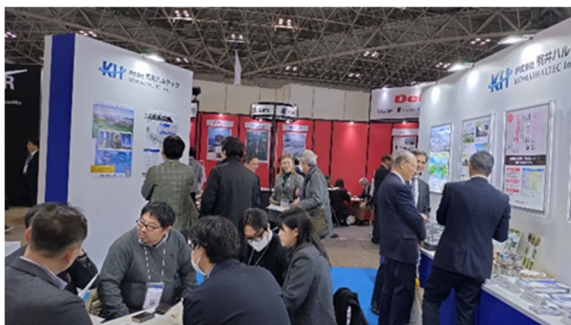
◎海外フォーラム

脱炭素政策推進を目的として、2024 年 10 月にカザフスタンの「カーボンニュートラル分野協力推進会議」と、フィジーの「日本・太平洋島嶼国 投資セミナー」に講師として招待され、当社製 300kW・1MW 風力発電機と上空式太陽光発電の講演を行いました。



◎WIND EXPO 風力発電展

「スマートエネルギーWEEK」の一環として 2025 年 2 月に東京ビッグサイトで開催された国際風力発電展に今年も出展しました。日本の厳しい気象条件や地域条件に対応できる「中型風力発電機 KWT300」の自家消費や地域インフラとしての設置例を始め、ハイポール式の架台上に太陽光パネルが設置可能な「ハイポール式スカイソーラー」等の紹介をしました。また、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)のグリーンイノベーション基金の支援を受け、「洋上風車向け鋼構造(タワー)製作」ラインを構築していくことについても、ホワイトボードアニメーションを使ってわかりやすく来場者の方に PR しました。





◎北海道教育大学環境教育

北海道教育大学において、環境教育を2回実施しました。

2024年11月14日に、環境経済学を履修している3、4回生41名を対象に、厚沢部町役場において、風力発電の基本的な知見を解説し、町内で当社が実施している風況観測のための観測ポール現場を見学しました。



また、2025年1月6日に、国際地域学入門を履修している1回生291名を対象に、北海道教育大学函館校において、カーボンニュートラル、風力発電の基本および日本における風力発電の状況などについて講義を行いました。



両方の講義とも、熱心に聞いている学生が多い印象でした。説明の後の質疑応答では多数の学生からの質問もあり、学生の理解を深めることができました。



◎ウクライナ風況観測

電力自給を目指すウクライナでは政府が最適なマイクログリッド・システムの構築に期待しています。本事業では、モデルケースを実証し、戦後復興時に展開するベースを検討しました。その一例としてウクライナ国内企業のエネルギー設備の電力供給を対象に最適システムの検討、同様システムの普及効果と戦後の事業展開の可能性を検証しました。検証の一環として、現地サイトの風エネルギーを把握するために、風況観測を実施しました。





◎大豊風車建設

高知県大豊町の「ゆとりすとパークおおとよ」内に、当社製 300kW 風車 KWT300 を 3 機、四国電力から受注し建設しました。建設場所の設計風速は 79m/s に達するため、商用初の台風仕様の導入となりました。

四国電力では、「2030 年度までに国内外で 50 万 kW の再生可能エネルギー電源を開発する」目標を掲げ、国内外の再生可能エネルギーの導入拡大に向けた取り組みを積極的に展開し、脱炭素社会の実現を目指しています。





再生可能エネルギーの普及に向けた取組(2) ～ 洋上風車タワー部 ～



洋上風力タワー製作設備の導入



◎NC ガス切断機

LPG ガス切断機について、将来的に水素ガス切断に移行することを目指し、配管のステンレス化、水素対応のバルブを用いる等、移行がスムーズに行える仕様としています。



◎永電磁リフティングマグネット

通常のリフティングマグネットは電磁石で通電させ、磁束を発生させて鋼板を吸着させますが、今回採用したリフティングマグネットは永久磁石で鋼板を吸着させ、電磁石で磁束の方向を曲げることで鋼板を脱離します。これにより電力使用量を電磁マグネットの 1/10 以下に抑えることができます。





◎ブラスト装置

ブラスト装置は循環型のインペラー式局所ブラスト装置を新規開発しました。インペラー式のブラスト投射装置は一般的なエア式に比べてエネルギー効率が良く、1/10 以下の電力使用量でのブラスト処理が可能です。これにより年間 144 トンの CO₂ 排出量の削減を見込んでいます。



平均直径 8 m、長さ 12 m を 8 時間で処理する場合の電力比較

<加工条件>

加工面積 301㎡/日 (8m*3.14*12m)

射密度 160kg/㎡ (B グレード材 Sa2.5)

必要射出量 48,160kg/日

	項目	自動ホイールブラスト	エア式ブラスト	計算式
①	ブラスト材投射量	150kg/台/分	25kg/min/ノズル	
②	時間当たり必要電力	15KW/h	37KW/h	
③	加工時間	5.4 h	32.1 h	48,160÷①÷60
④	必要電力量	81KWh	1188KWh	②×③

CO₂排出量の差

電力量の差 1188KWh-81KWh=1107KWh

1107KWh×300日 (計画操業日数) = 332100KWh

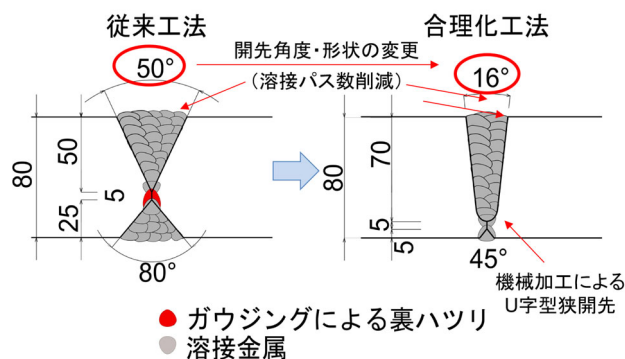
東京電力2020年度実績 0.434kg-CO₂/kWh

332,100×0.434 = 144トン/年



◎溶接電源

溶接電源は力率のよいインバーター式フルデジタル電源を採用しました。電力使用量の削減と、抵抗発熱を利用した LSO 溶接、U 開先の採用により、従来の溶接工法に比べて年間 20 トンの CO₂ 削減を目指しています。



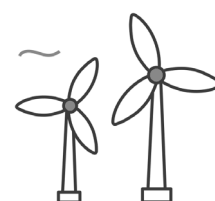
ガウジング省略による CO₂ 削減量の推定

	項目	数値	単位	計算式
①	ガウジング電流	600	A	
②	ガウジング電圧	40	V	
③	ガウジング量	30	m/溶接線	
④	ガウジング速度	0.3	m/分	
⑤	ガウジング作業時間	1.67	h	③÷④
⑥	1溶接線あたりのガウジング電力	40	KWh	①×②×⑤÷1000
⑦	タワー 1 基あたりの溶接線数	48	溶接線	
⑧	タワー 1 基あたりの使用電力	1920	KWh	⑥×⑦
⑨	東京電力2020年度実績	0.434	kg-CO ₂ /kWh	
⑩	タワー 1 基あたりの CO ₂ 削減量	833	kg/基	⑧×⑨
⑪	1年あたりの生産計画	24	本	
⑫	1年あたりの CO ₂ 削減量	20	トン/年	⑩×⑪÷1000



◎シートシャッターの導入

シャッター拡大改修工事においては、採光が可能なシートシャッターを導入し、採光効率の良い白色のシートを採用しました。作業環境の改善と、照明電力の削減を実現しています。





再生可能エネルギー発電事業

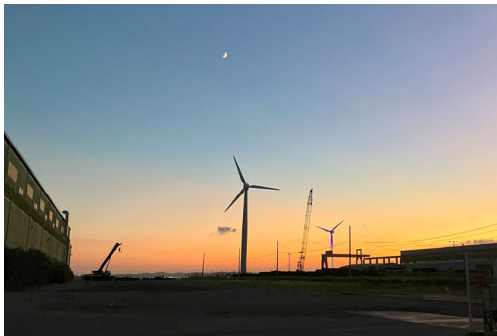


風力発電



◎富津工場

当社では、設置場所の気象、地形条件等にあった風力発電機の開発・生産に力を注いでおり、当社富津工場内にも 2006 年 9 月に 1 号機を、2014 年 2 月に 2 号機を設置しています。これらの風力発電機は継続的な研究・開発に資するとともに、生み出された再生可能エネルギーは富津工場における橋梁・鉄骨の生産工程の動力源として利用されています。



富津工場 風車 1, 2 号機

富津工場における風力発電の概要

設置者	株式会社 駒井ハルテック	
設置場所	千葉県富津市新富(駒井ハルテック内)	
用途	工場用電源 および 売電	
風力発電機	1 号 機	2 号 機
定格出力	300kW × 2 基	
運転風速	3 ~ 25m/秒	
稼働開始	2006 年 9 月	2014 年 2 月

2024 年度 富津工場における風車による発電量

(単位:kWh)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1 号機	18,996	42,045	22,524	25,426	21,091	39,364	38,608	34,893	37,108	43,151	38,246	25,655	387,106
2 号機	13,630	37,256	20,884	14,791	21,639	41,258	32,809	25,841	13,541	10,764	20,645	28,821	281,879
合計	32,626	79,301	43,408	40,217	42,729	80,622	71,417	60,734	50,649	53,915	58,891	54,476	668,985

※風力による発電量が、富津工場の全使用電力量に占める割合(風力発電寄与率)は、年間約 9.1%となっています。



◎宮川公園

三浦市の南部に位置する宮川公園内には、平成 9 年 3 月から平成 31 年 3 月まで通商産業省(現経済産業省)資源エネルギー庁が「風力発電フィールドテスト事業」として風力発電設備を設置していました。三浦市のランドマーク的な景観として定着するとともに、風力発電設備を身近に感じられる公園でしたが、平成 31 年 3 月に老朽化と部品調達の困難さから風力発電設備を撤去、当社が令和 2 年 5 月より再設置し、2 基の風力発電設備を設置管理運営しています。



三浦宮川風力発電所

宮川公園における風力発電の概要

設置者	株式会社 駒井ハルテック	
設置場所	神奈川県三浦市三崎町六合(宮川公園内)	
用途	売電	
風力発電機	1 号 機	2 号 機
定格出力	300kW × 2 基	
運転風速	3 ~ 25m/秒	
稼働開始	2020 年 5 月	

2024 年度 宮川公園における風車による発電量(2 基合計)

(単位:kWh)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1,2 号機	56,479	113,369	61,008	69,199	65,645	90,389	61,402	115,798	101,858	97,584	81,072	120,818	1,034,621



太陽光発電



◎富津工場

鉄構加工棟並びに橋梁加工棟の屋根を利用してソーラーパネルを設置し、2022 年 10 月から運転を開始しました。この電力は経済産業省の固定価格買取制度を使って東京電力に売電しています。



富津工場 ソーラーパネル

富津工場における太陽光発電の概要

設 置 者	株式会社 駒井ハルテック
設置場所	千葉県富津市新富(駒井ハルテック内)
用 途	売電
設置面積	10,801m ²
パネル面積	2, 163m×1,030m
パネル枚数	4,848 枚
発電出力	1,974kW
稼働開始	2022 年 11 月

2024 年度 富津工場におけるソーラーパネルによる発電量

(単位:kWh)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
103,181	190,738	106,831	10,234	13,025	219,984	163,505	110,146	124,680	121,901	152,294	163,498	1,480,016



◎スカイソーラー

大部分が山地である日本は平地部分が小さく、用途制限のない地域は極わずかです。そのために、多くの平面を要するメガソーラー事業に適する土地を確保しづらいのが現状です。中村勉総合計画事務所と当社は、現状の地形や土地利用を維持しながら、上空を活用するソーラー事業を提案します。

■ハイポール式スカイソーラー: 等間隔に設置したハイポールに梁を通し、ソーラーパネルを配置します。



所在地: 福島県 会津若松市

施 主: 富士電機株式会社

形 式: 上空ソーラー発電システム(1.3MW)

特記事項: ハイポール型太陽光発電設備架台の設計、製作、基礎工事、据付を実施。また積雪対策として融雪設備設置工事を実施。

■ケーブル式スカイソーラー: ハイポールに張ったケーブルに、ソーラーパネルを配置した吊構造です。



2015 年 8 月から 2016 年 6 月まで富津工場で実証試験をし、安全性が確認されたため、松戸テクニカルセンターに移設して、商業運転(売電)を開始しました。

所在地: 千葉県 松戸市

形 式: 上空ソーラー発電システム(14.5kW)

支柱間: 22.4m、: 支柱高: 4.5m

特記事項: ケーブル懸架型空中太陽光発電装置を開発(特許取得)

2024 年度 テクニカルセンターにおけるソーラーパネルによる発電量

(単位:kWh)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1,435	1,543	1,732	1,509	1,860	1,468	955	710	820	806	1,125	1,067	15,030

For more information, visit our website!!!





温室効果ガス排出量の算出と削減



TCFD 提言に基づく情報開示

当社グループは、気候変動問題への取り組みを推進するために、2023 年 3 月に TCFD 提言への賛同を表明し、8 月には提言に基づく情報開示を行いました。

◎ガバナンス

取締役会において経営戦略等に関して審議を行う際、必要に応じ、気候変動問題に関連したリスクや機会を踏まえたうえで、意思決定を行っております。

また、代表取締役社長を委員長、取締役・執行役員を委員とする「サステナビリティ委員会」を設置し、サステナビリティに関する取り組みを推進しております。

◎戦略

気候変動が当社グループの事業、戦略、財務に及ぼす影響の評価及びそれらに対する対応策を検討するため、気候変動がもたらすと思われるリスク・機会を幅広く洗い出し、対応策を検討しております。

◎リスク管理

サステナビリティ委員会にて気候変動問題について議論を行い、その結果は、取締役会に報告されると共に、経営リスク管理委員会においてリスク状況の評価モニタリングが行われ、取締役会を通じてサステナビリティ委員会にフィードバックされます。

◎指標と目標

現在、2050 年温室効果ガス排出ネットゼロに向けて、具体的な施策を検討しております。また、サプライチェーンを含めた排出量(Scope3)に対しても、顧客や仕入れ先と協力して削減に努めてまいります。

◆TCFD は 2023 年 10 月に解散しましたが、その提言は現在も有効であり、ISSB(国際サステナビリティ基準審議会)に引き継がれています。当社の開示情報は HP の IR 情報より、[「TCFD 提言に基づく情報開示のお知らせ」\(2023/8/10\)](#)をご覧ください。





温室効果ガス排出量の算出と削減

当社では 2012 年度より、工場、事務所からのエネルギー由来の温室効果ガス(CO₂)排出量の算出を行っていましたが、2019 年度からはその範囲を KH グループ全体(駒井ハルテック、東北鉄骨橋梁、KH ファシリテック)に広げ、さらに 2021 年度からはサプライチェーンを含めた Scope1~3 排出量の算出を行っています。

また、2023 年 8 月には Scope1+2 排出量について、2030 年度に 2021 年度比 46%削減という中間目標を設定し、2050 年度のカーボンニュートラル達成に向けて取り組んでいます。

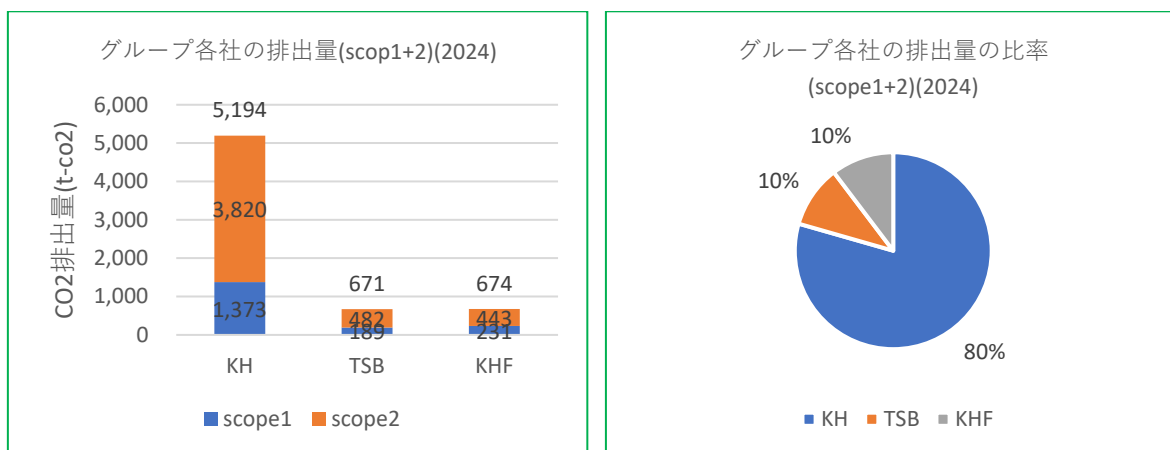
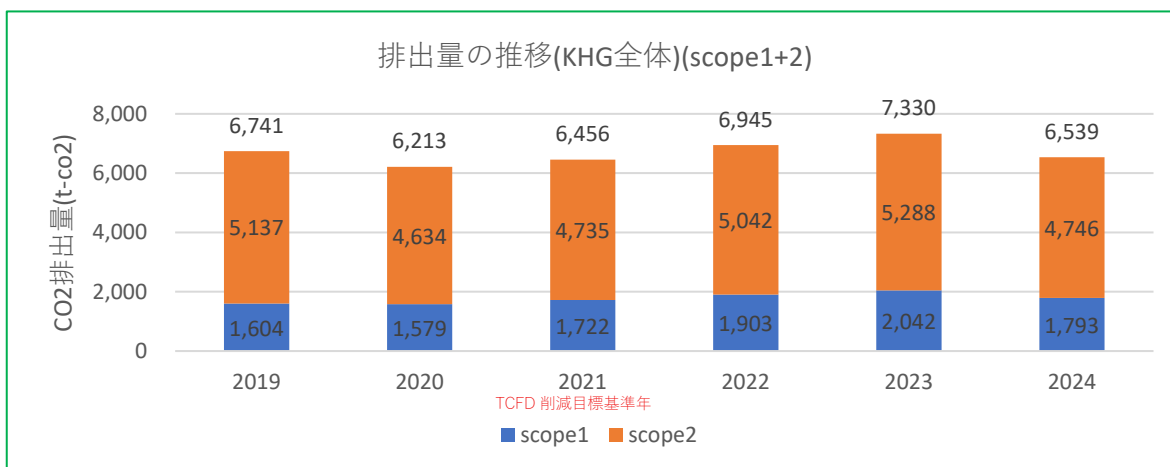
KH グループの CO₂ 排出量 (t-co₂)

年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024 (速報値)
Scope1	1,604	1,579	1,722	1,903	2,042	1,793
Scope2	5,137	4,634	4,735	5,042	5,288	4,746
Scope1+2	6,741	6,213	6,456	6,945	7,330	6,539
Scope3	—	—	106,523	135,776	159,506	106,646
Scope1~3 合計	—	—	112,979	142,721	166,836	113,185

※ KHF は 2020.4 にグループ会社となったため 2020 年度以降のみ計上としています。

※ 2020 年度以前は橋梁現場からの排出量は含まれていません。

※ 2024 年度は速報値。



注) KH: 駒井ハルテック TSB: 東北鉄骨橋梁 KHF: KH ファシリテック





環境活動報告





環境との調和



富津工場



富津工場では、社員の自主的活動として社内ボランティアを集い、富津市の海岸を3ヶ月に1回のペースで清掃しました。この活動は、地域の海岸清掃ボランティア団体とコラボレーションして、社員およびその家族も交えた活動に発展しています。また、工場周辺の清掃を行いました。



富津海岸清掃



工場周辺の清掃



和歌山工場



和歌山工場では、和歌山工業高等専門学校での企業実践講座の講師を務めたほか、由良小学校の社会科見学の受け入れを行いました。地域での活動として、海岸清掃、古紙回収運動にも参加しています。また、衣奈祭に有志社員が参加し、地元との親睦を深めました。



社会科見学 由良小学校



海岸清掃



古紙回収:由良中学校



衣奈祭



東京本社



本社では、台東区の清掃活動「大江戸清掃隊」に登録しています。大江戸清掃隊の一員として、毎月第3水曜日に社員持ち回りで清掃活動を実施し、「ごみゼロキャンペーン」にも参加しました。

また、紙類のリサイクルの徹底に努め、廃棄物の削減に取り組んでいます。

環境省の呼びかけで始めた「CO₂削減／ライトダウンキャンペーン」は、自主的に継続実施しました。



大江戸清掃隊



ごみゼロキャンペーン



紙類のリサイクル



ライトダウン



大阪本店



本店では、気候変動に対する取り組みとして、脱炭素経営宣言(中小事業者を含めたあらゆる事業者の脱炭素化を支援・促進するため、大阪府が創設した制度)の登録をしています。

地域での活動として、大阪市主催の「大阪マラソン“クリーンUP”作戦」に参加し、周辺歩道部の美化活動に取り組んだほか、大阪万博 TDMトライアルに参加し、交通混雑緩和に取り組みました。

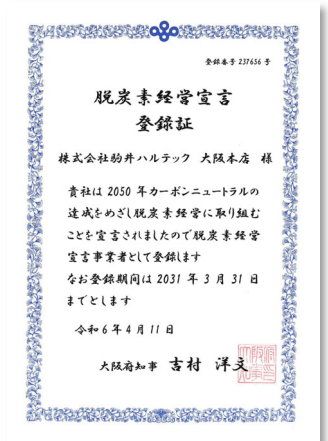
社会貢献活動として、企業や団体、個人から寄付されたカレンダーを販売し、売上げを被災地支援等に活用するチャリティイベント「MUKO チャリティカレンダー市」に寄付を行いました。また、環境省の呼びかけで始めた「CO2 削減／ライトダウンキャンペーン」を自主的に継続実施しています。



“クリーン UP”作戦



ライトダウン



大阪事業所



大阪事業所では、大阪市主催の「大阪マラソン“クリーンUP”作戦」に参加し、周辺歩道部の美化活動に取り組みました。また、グリーンカーテンを設置し、撤去時に周辺歩道部の美化活動に取り組みました。



“クリーン UP”作戦



グリーンカーテン



周辺歩道部美化活動



テクニカルセンター



テクニカルセンターでは、「まつど SDGs キャラバンメンバーシップ制度」に登録し、松戸市とともに SDGs の達成に取り組んでいます。また、「CO₂ 削減／ライトダウンキャンペーン」や周辺道路および敷地内の美化活動にも取り組みました。



ライトダウン



周辺道路および敷地内清掃活動

また、エコキャップ運動の目的「リサイクルの促進、CO₂ の削減、売却益で発展途上国の医療支援、障がい者・高齢者雇用促進」に賛同し、ペットボトルのキャップの収集を行っています。2024 年度は 4,257 個 (9.9kg) を集め、31.19kg の CO₂ の発生を抑えることができました。

エコキャップ
登録書

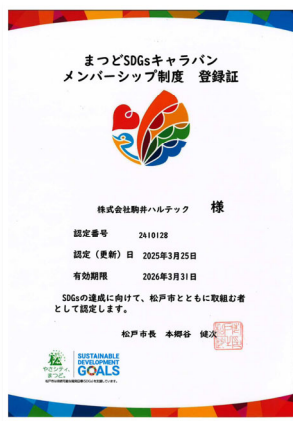
株式会社 松戸市ハルテック 様
〒129-0201
千葉県松戸市中央西町4-1
TEL: 047-387-0249

令和5年度: 4,257 個 (9.9kg) | 累計個数 (2025/02/22時点): 59,426 個

※ 令和5年度: 4,257 個 (9.9kg) | 累計個数 (2025/02/22時点): 59,426 個

※ 令和5年度: 4,257 個 (9.9kg) | 累計個数 (2025/02/22時点): 59,426 個

※ 令和5年度: 4,257 個 (9.9kg) | 累計個数 (2025/02/22時点): 59,426 個



※まつど SDGs キャラバンメンバーシップ制度

令和 4 年に松戸市が内閣府から「SDGs 未来都市」に選定されたことを契機に、市内における SDGs の普及・啓発等を推進し、SDGs の達成に向けた機運をさらに高めるため、令和 5 年 8 月より開始された松戸市独自の SDGs 宣言登録制度。令和 7 年 4 月 1 日からはまつど脱炭素社会推進事業所制度と統合。

テクニカルセンターでは、SDGs の達成に向けた取り組みについて考え、宣言書を作成し、申請・登録しています。



まつど SDGs キャラバン
認定第 2410128 号



営業所



各営業所にて清掃活動を実施しました。

◎東北営業所では、2017 年より「みやぎスマイルロード・プログラム」に参画し、スマイルサポーターとして名取中央高架橋の清掃活動に取り組んでいます(3回/年)。また、広瀬川 1 万人プロジェクトに協賛しており、2016 年より広瀬川の清掃活動に取り組んでいます(2回/年)。



名取中央高架橋清掃活動



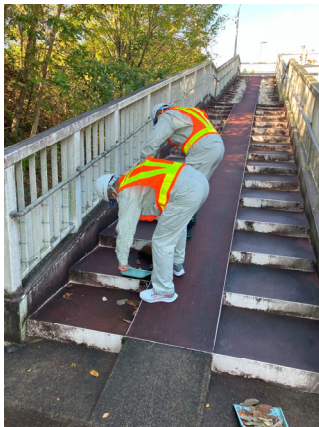
広瀬川清掃活動



◎名古屋営業所では、ボランティアとして岐阜県管理歩道橋の自主点検と清掃活動を実施しています。

◎中国営業所では、広島市で開催されるフラワーフェスティバルの前に、会場となる平和大通り周辺の清掃を実施しました。また、「ひろしまドリームネーション」(官民共催のイルミネーション事業)の期間中に、会場の平和大通り周辺の清掃活動を実施しました。

◎九州営業所では、周辺道路脇の路側部および歩道部上の清掃活動を実施しました。



岐阜県管理歩道橋清掃活動



平和大通り周辺清掃活動



九州営業所周辺清掃活動



橋梁建設（架設）現場での環境に対する取組



安全・環境パトロール

12 つくる責任
つかう責任



橋梁架設現場は、都心部、市街地はもちろん山間部、渡河部、海岸付近など自然と共存する場所での作業も多いことから、環境保全に対して細心の注意を払って作業を進める必要があります。

当社では、作業環境の安全性並びに周辺環境への対応の適切性の確認、現場作業従事者の安全意識の高揚を目的に、建設現場関係者（現場責任者、協力会社、店社管理者、安全品質管理部）が相互に連携し、安全・環境パトロールを毎月、全稼働現場にて実施しています。

2024 年度も、建設現場における作業環境（騒音・振動、水質汚濁、産業廃棄物、現場特有の環境側面等）に重点を置いて、全国に点在する現場のパトロールを実施しました。

遠隔臨場システムを使用することにより交通移動を減らし、環境への負担を軽減することに努めています。



パトロール風景



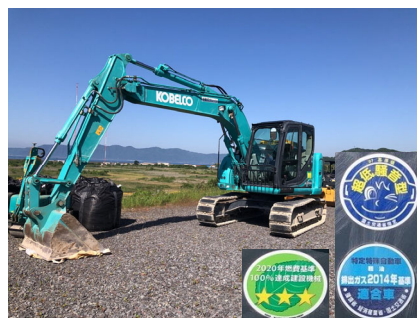
環境に対する個別取組

12 つくる責任
つかう責任



◎騒音・振動対策、排出ガス対策

建設現場の騒音や振動の低減・防止、建設機械からの排出ガス規制の順守を図るため、低騒音・低振動タイプ、排出ガス規制適合の建設機器、重機などを選定しています。また、車両等の待機時の排出ガス抑制のために、アイドリングストップを推奨、指導しています。



オフロード法（特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律）適合表示

オフロード法は、建設機械等のオフロード車※の排出ガスを規制するため、2006 年 4 月 1 日に施行されました。施行日以降に製作された新型車は、排出ガス基準を満たす基準適合表示を付したものでなければ国内では使用できません。

※オフロード車：公道を走行しないバックホウ、フォークリフト、ブルドーザー等の特定特殊自動車のことをいいます。



第3次排出ガス対策型建設機械指定制度表示(可搬式建設機械の表示)

オフロード法又は道路運送車両法により排出ガス規制を受けていない建設機械(発動発電機、小型バックホウ等)メーカーから申請、国土交通省が指定後、表示が可能。

第3次排出ガス対策型建設機械指定制度で定められた技術基準を満たす。



超低騒音型建設機械表示

「低騒音・低振動型建設機械の指定に関する規程」(平成9年建設省告示第1536号)の騒音基準値から6dB減じた値を下回る騒音の測定値を得た建設機械。



燃費基準達成建設機械認定表示(100%以上達成)

「燃費基準達成建設機械の認定に関する規程」に基づき、建設機械から排出されるCO₂の削減のための燃費性能の優れた建設機械を認定し、この建設機械の使用を普及促進するもの。



◎騒音対策

周辺環境への配慮のため、防音シートの設置や夜間ボルト締め作業時の消音機械の使用を実施しています。



防音シート

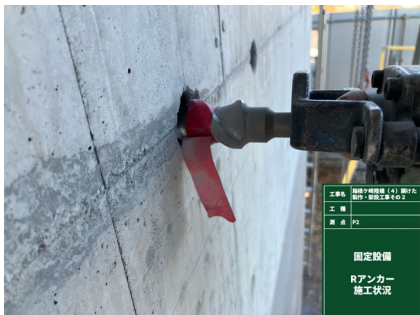


消音機械



◎R アンカー(抜取り可能なアンカーボルト)

既設コンクリート構造物に一時的に使用するアンカーボルトを設置する際、当社が開発した「Rアンカー」を採用することで使用後に完全に撤去することができるため、コンクリート内に異物を残すことなく、構造物の持続可能性向上に寄与しています。





◎環境に配慮した塗装

弱溶剤の塗料を使用することにより、溶剤量を低減し、有害性のある化学物質の排出量を抑えています。



弱溶剤の塗料を用いた補修塗装



◎水質汚濁防止

海、河川付近の橋梁建設現場では、油漏れ等による海、河川等の汚染を防止するため、建設機器、重機などの日常点検・整備を実施するとともに、汚濁防止膜やオイル漏れ防止機能のある発電機を使用するなど、水質汚濁の防止を図っています。また、緊急時に備えてオイル吸着マット等を常備し、作業者に周知しています。



汚濁防止膜



オイルフェンス一体型発電機



オイル吸着マット



◎ソーラーパネル

ソーラーパネルや充電バッテリーを使用し、現場詰所の電源などとして活用しました。



ソーラーパネル





橋梁現場における地元交流



施工現場各地で工事見学会を開催し、地域との交流を図るとともに、施工内容への理解を深めていただいています。また、現場近くの地区清掃活動を行うなど、周辺地域への貢献に努めました。



香下大橋 現場見学会



隼人港橋 富隈小学校現場見学会



北条 JCT 橋 東園地区清掃活動



樫原高田 D3 ランプ橋 国交省現場見学会



豊見城高架橋 ジャイカ現場見学会



箱根ヶ崎陸橋 見学会

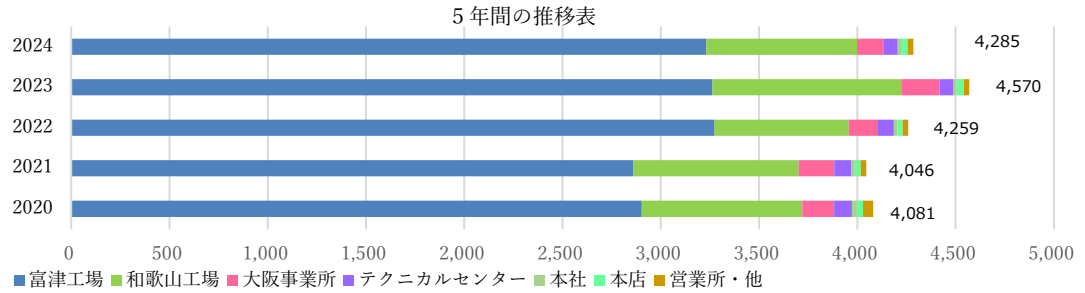


温室効果ガス排出量と使用エネルギー量の推移

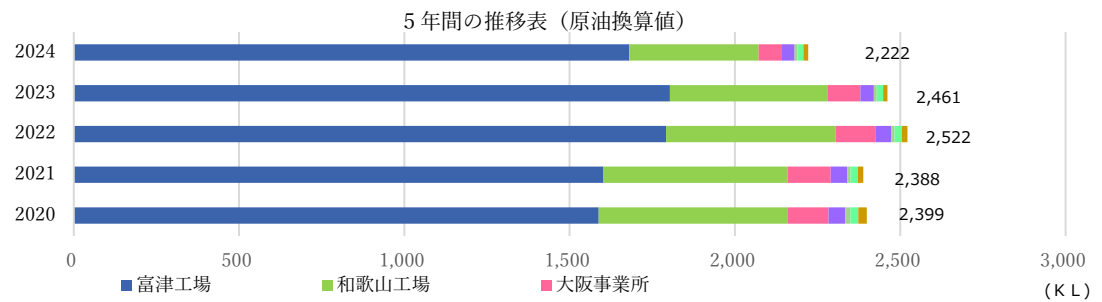
当社は、省エネルギー活動に積極的に取り組むと共に、環境インフラ事業(風車、太陽光パネル)を通して、気候変動の原因となる CO₂ 排出量の削減に取り組んでいます。新たに 2030 年度 CO₂ 排出量 46% 削減、2050 年度カーボンニュートラルという目標を掲げ、達成に向けた施策の検討を重ねております。



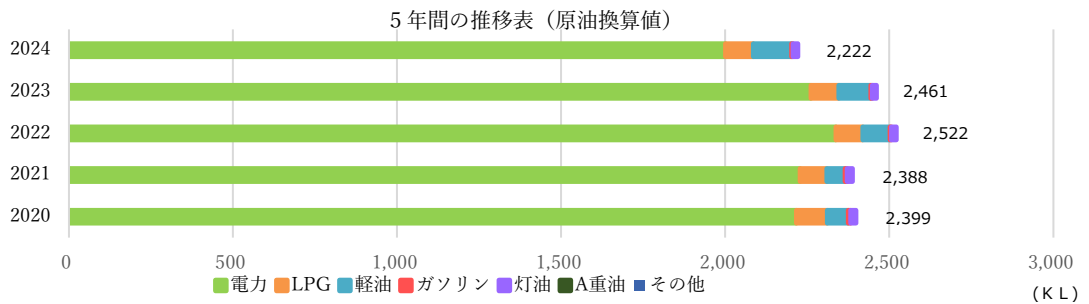
CO₂ 排出量の推移



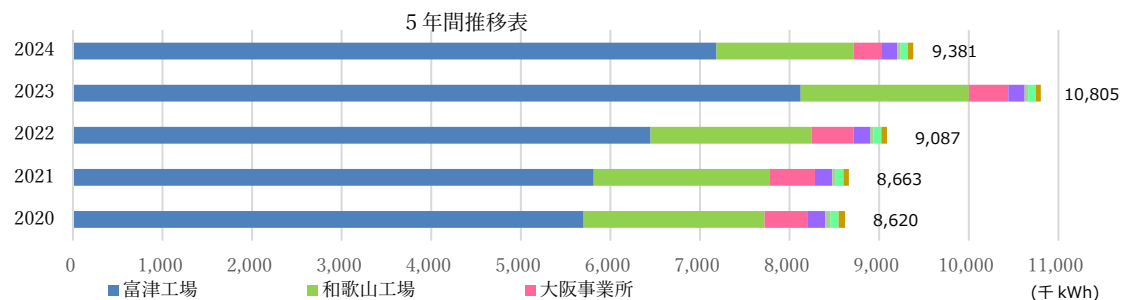
エネルギー使用量(原油換算値)の推移



エネルギーの種類(原油換算値)の推移



電力使用量の推移(2023 年度より自家風力発電による電力を含む)



※ 2024 年度報告より「改正省エネ法」の内容に沿った集計としています。



当社は環境負荷低減を追求し、エコプロダクツ（環境配慮型製品）の開発に取り組んでいます。



パイプスラブ（鋼コンクリート合成床版）

NETIS 番号:KK-040071-V(2017.4.20 掲載期間終了)

パイプスラブは、リブ（孔明き鋼板）とパイプ（構造用鋼管）とで構成された鋼板パネルがコンクリートと一体化することにより、大きな耐荷力と高い耐久性を実現した「鋼コンクリート合成床版」です。

「安（安全、安心）」「新（新技術、新発想）」「短（短工期）」による建設コスト縮減も特徴ですが、その高耐久性ゆえの長寿寿命化により、架け替えなどの更新期間の長期化が可能となり、施工に係る環境負荷が低減できるという利点があります。

※ パイプスラブは、日本ファブテック㈱、㈱IHIインフラシステムおよび当社の3社による共同開発商品です。



Rアンカー（抜取り可能なアンカーボルト）

NETIS 登録:KT-180026-A

橋梁工事では、仮設部材などを既設コンクリート構造物に固定するために、仮設アンカーボルトを埋め込むことが多くあります。一般に、仮設アンカーボルトは完全に撤去することが困難で、コンクリート構造物内部に異物として残ってしまう問題がありました。

「R アンカー」は、アンカーボルトに特殊コーティングを施すことにより、使用後に完全に抜き取ることができるあと施工アンカーボルトです。「R アンカー」はコンクリートに優しく、既設インフラ構造物の持続可能性の向上に寄与できる製品です。



アロンブルコート® Z-X、Z-Y工法

NETIS 登録:CB-120013-VR(2023.3.31 掲載期間終了)

「アロンブルコート® Z-X、Z-Y工法」は、アクリルゴムを用いてコンクリート表面の剥落・劣化を防止する「コンクリート表面保護工法」で以下のような特長があります。

■「環境に優しい」

有機溶剤を一切含まないオール水系材料です。

■「コンクリートに優しい」

水蒸気透過性を従来以上に高め、コンクリート内部に残留している水分の発散を妨げません。

■「メンテナンスが容易」

既設塗面を剥ぎ取ることなく、重ね塗りが可能です。

（剥ぎ取りの廃棄物を出さないことで ECO を実現）

■「安価」

塗り重ね回数は4回とし、施工面での経済的な優位性を実現しています。

※「アロンブルコート®Z-X、Z-Y 工法」は、東亜合成㈱と当社の共同開発商品です。





主要事業所（サイト）における環境マネジメントシステムへの取組

・富津工場

部門項目	具体的施策	結果
1. 環境負荷低減 ・電気使用量管理と低減 原単位△2%/前々年度 ・小委員会主導による意識向上 ・各エネルギー使用量の管理・削減	・無駄時間、工場費の削減意識によるエネルギー使用量削減活動実施 ・フロン排出抑制法に基づく簡易点検、定期点検実施 ・照明 LED 化工事 ・電気自動車使用の推進 ・鉄構加工棟キュービクル増設稼働による工数、エネルギー使用量削減 ・溶接量低減構造の検討	・原単位 前々年度比 △14.3% 操業低下の影響あり。操業に合わせたエネルギー使用量削減の取組みを行う。 ・橋梁+鉄構加工棟の照明 LED 化工事完了 ・キュービクル増設による溶接新技術運用にて生産性向上
2. 環境側面管理(サイト環境側面管理表の履行管理) ・管理項目の履行と効果検証 *ピーク電力対策 *分別回収強化 *不具合削減への取組み	・分別回収について小委員会にて報告、啓蒙 ・品質改善委員会にて不具合再発防止取組み強化 ・電力超過監視と管理強化 ・低濃度 PCB 調査	・分別回収について啓蒙・指導・パトロール監視 ・不具合削減について各種会議、委員会にて取組み
3. 温室効果ガス排出量の算定(精度向上)と削減検討(TCFD への取り組み) ・各種データの算出および開示 ・省エネパトロール実施 ・グリーン購入・再利用	・省エネパトロールについて省エネ小委員会等で実施を検討	・省エネパトロール実施検討 ・グリーン購入実施
4. 産業廃棄物排出量の削減目標値設定 △5%/前年度 ・スクラップ移行の継続 ・スクラップ化検討	・製品スクラップ実施(橋梁) ・盤木再利用	・産業廃棄物排出量 前年度比 +45% 特殊加工棟での廃棄活動により増加。操業度、洋上風車との関連も検証する。小委員会の開催日程変更、充実にて、委員他の意識向上に取組む。 ・盤木再利用回収実施
5. ごみ減量(リデュース)の目標値設定 ・電子化の推進 ・古紙回収	・下拵 DB 運用の講習会実施 ・図面照合検査の電子化 ・古紙回収について啓蒙、小委員会にて削減への意識付けと取組実施	・会議タブレット対応 ・古紙回収実施
6. 地域貢献活動(地域交流、近隣清掃など) ・ボランティア活動の実施 ・工場周辺の清掃活動 ・自治活動参加 ・富津市への貢献活動	・海岸清掃ボランティア活動への参加 ・工場外清掃 ・花火大会、ふるさと祭り協賛 ・富里南小学校工場見学(70名)	・富津海岸清掃活動参加(6、12、3月) ・工場外清掃 11月実施 ・各協賛実施 ・工場見学 12月実施

・和歌山工場

部門項目	具体的施策	結果
1. 環境負荷の低減 ・小委員会主導による意識向上・理解 ・各エネルギー使用量の管理・削減 原単位 △2%/前々年度	・パトロールによる改善 ・無駄時間・工場費の削減意識によるエネルギー使用量減 ・老朽化電気設備の更新 ・酸素配管等の更新 ・グリーンカーテン設置	・原単位 前々年度比 △57.3% 生産量減少の影響がある。作業時間を勘案しエネルギー使用量を管理していく。
2. 環境側面管理(サイト環境側面管理表の履行管理) ・管理項目の履行と効果検証 *ピーク電力対策 *分別回収強化 *省エネパトロール実施 *グリーン購入・再利用 *不具合削減への取組み	・デマンド監視システム(mimamori)を設置して確認・管理 ・小委員会にて分別回収の報告、啓蒙 ・小委員会にて省エネパトロールの啓蒙 ・業務課、製造課中心にエコ商品の選別購入、社内一括購入実施 ・不具合削減について材手前検討会、工作会議、工事反省会等に対応 ・低濃度 PCB 調査	・ピーク電力超過なし ・分別回収について啓蒙・指導・パトロール監視 ・省エネパトロールを定期に実施 ・エコ商品購入実施 ・不具合削減について各種会議、管理職パトにて取組実施 ・低濃度 PCB 調査結果により、変圧器 20 台の交換を完了、処理まで保管
4. 産業廃棄物排出量の削減目標値設定 △5%/前年度 ・スクラップ移行の継続 ・スクラップ化検討		・産業廃棄物排出量 前年度比 +42% 前年度下期の処理量が少なく、累積分が重なり増加。定期的に処理することとした。
5. ごみ減量(リデュース)の目標値設定 ・電子化の推進 ・古紙回収	・各種回覧、配布資料、申請書類の電子化 ・古紙回収について小委員会にて報告、削減、リサイクルへの意識付けと取組実施	・作業管理シートの電子化 ・排出量(カサ)の削減を取組実施
6. 地域貢献活動(地域交流、近隣清掃など) ・古紙回収協力 ・地域清掃活動への参加 ・地域交流	・由良町古紙回収協力 ・吹井地区清掃 ・海岸清掃	・由良中学校の古紙回収協力 7/28 実施 ・海岸清掃「リフレッシュ瀬戸内」 6/8 参加 ・吹井地区清掃 5/28 実施

・本社

部門項目	具体的施策	結果
1. 環境負荷の低減 ・原単位 △2%／前々年度 ・エネルギー使用量、活動量の把握、分析 ・電気使用量の低減	・ガルーン・朝礼による啓蒙活動 *省エネ小委員会のアナウンス *空調機使用状況の把握 ・ドレスコードフリーの実施 ・毎月第3水曜日をNO残業DAYに設定	・原単位 前々年度比 △5.39% 時間外労働管理を強化し、改善を図る。 ・ライトダウン 6/21、7/5 実施
2. 環境側面管理(サイト環境側面管理表の履行管理) ・電気使用・廃棄物の状況把握 ・増減の要因分析 ・電気使用・廃棄物の状況とその分析結果のサイト内フィードバック	・省エネ小委員会での使用状況の確認 ・ガルーン・朝礼による結果報告	・電気使用・廃棄物の状況とその分析結果のサイト内周知実施
5. ごみ減量(リデュース)の目標値設定 △1%／前年度(32.9kg削減) ・廃棄物削減意識の向上 ・紙類のリサイクル徹底	・ガルーン・朝礼による啓蒙活動	・前年度比△22%(712kg削減) 廃棄物削減活動の継続のため、ルールの見直し等により活動負担を軽減するよう適宜検討した。
6. 地域貢献活動(地域交流、近隣清掃など) ・地域の清掃活動へ参加	・台東区の清掃活動「大江戸清掃隊」へ参加	・毎月第3水曜日に社員持ち回りで活動実施(全12回) ・台東区ごみゼロキャンペーン 6/2 参加

・本店

部門項目	具体的施策	結果
1. 環境負荷の低減 ・電力使用量の低減 ・原単位 △2%／前々年度 ・エネルギー使用量、活動量の記録と削減検討 ・省エネ活動の継続 ・関西エコオフィス宣言	・室温 28℃(夏期)、20℃(冬期)を基準に対応 ・省エネ小委員会にて電力量、宅配利用状況を確認 ・省エネ指針を更新周知	・原単位 前々年度比 △19.73% ・ライトダウン 6/21、7/5 実施 ・関西エコオフィス宣言取組継続
2. 環境側面管理(サイト環境側面管理表の履行管理) ・備品余剰購入の防止 ・パイプファイルの再利用 ・ゴミの分別徹底	・カウント量記録による監視継続 ・テナントビルの清掃方針に合わせたゴミの分別徹底 ・文具の環境製品の選択	・OA紙の消費量△11%、購入量減少 ・パイプファイル新規購入なし ・ゴミの分別順守
3. 温室効果ガス排出量の算定(精度向上)と削減検討(TCFDへの取り組み) ・大阪府脱炭素経営宣言	・大阪府脱炭素経営宣言の継続	・大阪府脱炭素経営宣言取組継続
5. ごみ減量(リデュース)の目標値設定 ・OA紙等廃棄量の計測・削減 △1%／前年度	・省エネ小委員会にてOA紙廃棄量を確認	・OA紙等廃棄量 前年度比+43% 12月度職場美化実施に伴い増加。計測値が不正確である可能性があり、今後もデータ収集を継続し確認する。
6. 地域貢献活動(地域交流、近隣清掃など) ・地域清掃活動 ・大阪地域貢献企業バンク ・万博 TDM パートナー	・大阪地域貢献企業バンクの登録継続 ・万博 TDM パートナーの登録	・地域清掃活動 1/24 実施

・大阪事業所

部門項目	具体的施策	結果
1. 環境負荷の低減 ・電気使用量の管理と低減 ・原単位 △2%/前々年度 ・年間を通してのエネルギー使用量、活動量の把握	・省エネ小委員会でエネルギー使用量と生産動向確認 ・毎月のエネルギー使用量、活動量の把握、報告と監視 ・電気使用量の動態管理 ・グリーンカーテンの設置	・原単位 前々年度比 △12.47% ブレード工場、ブレード塗装場の解体により使用電力量が減少した(原油換算値 約 41%減少、使用電力量 約 32%減少)。 ・グリーンカーテン 4/26 設置
2. 環境側面管理(サイト環境側面管理表の履行管理) ・3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進と履行管理	・省エネパトロールの実施 ・リサイクル量の把握	・省エネパトロール 5 回実施 ・消防避難訓練 6/25 実施
4. 産業廃棄物排出量の削減目標値設定 前年度比 △1%		・前年度比△40% ブレード工場、ブレード塗装場が無くなったため大幅に減少。
5. ごみ減量(リデュース)の目標値設定 ・廃棄物の削減量の把握	・廃紙、廃棄物の動態管理	・一般廃棄物 前年度比△15% ・廃紙 前年度比△40%
6. 地域貢献活動(地域交流、近隣清掃など) ・清掃活動	・グリーンカーテン撤去時の歩道部美化活動 ・大阪マラソン“クリーン UP”作戦への参加	・グリーンカーテン撤去、歩道部の美化活動 11/8 実施 ・大阪マラソン“クリーン UP”作戦 2/13 参加

・テクニカルセンター

部門項目	具体的施策	結果
1. 環境負荷の低減 ・原単位 △2%/前々年度 ・電気使用量の管理、低減 ・ライトダウンキャンペーン(環境省)継続	・継続的啓蒙活動 ・電気使用状況の報告(省エネ小委員会) ・不使用箇所の電源オフ ・ライトダウンキャンペーンの実施継続	・原単位 前々年度比 △20.11% 省エネ小委員会を通して意識付けを行った結果、電気使用量が劇的に減少・改善した。 ・ライトダウン 7/5 実施
2. 環境側面管理(サイト環境側面管理表の履行管理) ・省エネ小委員会の実施 ・省エネパトロールの実施 ・防災防火訓練の実施 ・BCP 用発電機の試運転の実施	・省エネ小委員会により環境側面の展開周知 ・各部署の環境パトロールを持ち回りで実施(毎月)	・環境側面の理解 ・削減意識の向上 ・危機管理意識の向上 ・消防訓練 11 月実施 ・発動発電機の使用訓練を持ち回りで実施(隔月)
3. 温室効果ガス排出量の算定(精度向上)と削減検討(TCFD への取り組み) ・地球温暖化対策地域推進計画継続	・松戸市「まつど脱炭素社会推進事業所」の対象項目に沿って取り組み	・地球温暖化対策地域推進計画継続
5. ごみ減量(リデュース)の目標値設定 ・タブレット導入によるペーパーレス化 ・廃棄物の削減、分別 ・リサイクル量の把握、報告 ・廃紙の有価物としての引き取り ・エコキャップ活動継続	・タブレット使用の推奨 ・ゴミの分別、リサイクル量の報告(省エネ小委員会) ・廃コピーの状況報告(省エネ小委員会) ・エコキャップ回収・送付	・廃棄物の削減意識の向上 ・各課にてエコキャップ活動実施
6. 地域貢献活動(地域交流、近隣清掃など) ・職場見学・職場体験の受け入れ継続 ・事業所周辺の道路清掃	・事業所周辺の道路清掃	・職場見学・職場体験の受け入れ要請無く未実施 ・近隣清掃 10/21、10/24 実施



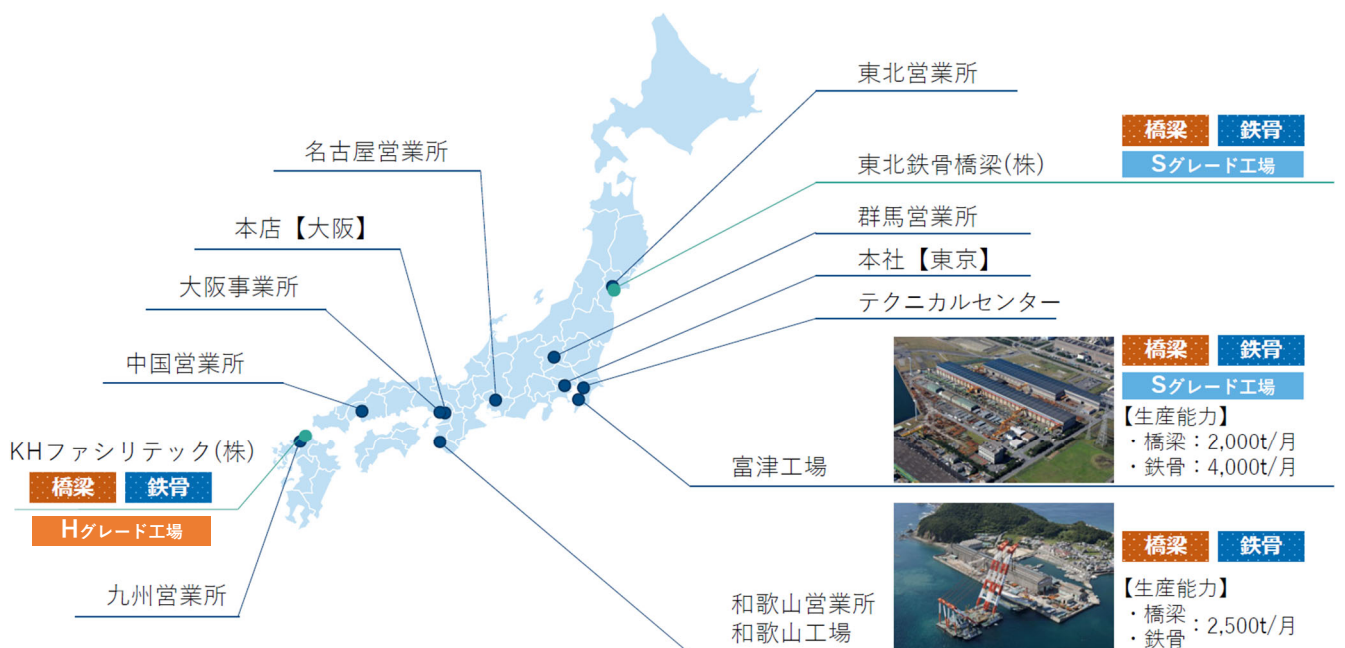
会社概要





会社概要

商 号	株式会社駒井ハルテック(英訳名 KOMAIHALTEC Inc.)
設 立	1883 年(明治 16 年)創業
本社所在地	東京都台東区上野一丁目 19 番 10 号
従 業 員 数	620 名(2025 年 3 月 31 日現在)(連結)
資 本 金	66 億 1,994 万円(2025 年 3 月 31 日現在)
株 式 上 場	東京証券取引所 スタンダード市場
建設業許可	国土交通大臣 許可(特一3) 第 142 号
ISO 認 証	ISO9001, ISO14001
事 業 内 容	【橋梁事業】 橋梁の設計・製作及び現場架設、鋼橋の現場工事の施工及び維持補修 【鉄骨事業】 鉄骨・鉄塔の設計・製作及び現場建方 【インフラ環境事業(再生可能エネルギー・海外インフラ事業)】 風力発電システム及び太陽光発電システムの設計、製作、施工
関 連 会 社	【連結子会社】 東北鉄骨橋梁(株) 鉄骨・橋梁 (株)シブス 印刷・不動産 KH ファシリテック(株) 鉄骨・橋梁
U R L	https://www.komaihaltec.co.jp/





(株)駒井ハルテック 事業所一覧

本社	〒110-8547 東京都台東区上野一丁目 19 番 10 号	TEL 03(3833)5101
本店	〒550-0012 大阪市西区立売堀四丁目 2 番 21 号	TEL 06(4391)0811
東北営業所	〒980-0014 仙台市青葉区本町二丁目 1 番 29 号	TEL 022(227)8724
群馬営業所	〒370-0831 群馬県高崎市あら町 129 番 1 号	TEL 027(384)4863
名古屋営業所	〒460-0003 名古屋市中区錦二丁目 20 番 8 号	TEL 052(684)8121
和歌山営業所	〒649-1122 和歌山県日高郡由良町神谷 805 番 2 号	TEL 0738(65)2841
中国営業所	〒730-0036 広島市中区袋町 5 番 38 号	TEL 082(247)4838
九州営業所	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東二丁目 4 番 17 号	TEL 092(441)3665
富津工場	〒293-0011 千葉県富津市新富 33 番 10 号	TEL 0439(87)7470
和歌山工場	〒649-1122 和歌山県日高郡由良町神谷 805 番 2 号	TEL 0738(65)1234
大阪事業所	〒555-0041 大阪市西淀川区中島二丁目 5 番 1 号	TEL 06(6475)2111
テクニカルセンター	〒270-2214 千葉県松戸市松飛台 404 番 1 号	TEL 047(387)0170



関連会社一覧

東北鉄骨橋梁(株)

【 本社 】	〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町二丁目 14 番 27 号	TEL 022(221)7511
【 岩沼工場 】	〒989-2421 宮城県岩沼市下野郷字新関迎 230 番	TEL 0223(22)1611
(株)シップス	〒270-2214 千葉県松戸市松飛台 404 番 1 号	TEL 047(384)5281
KH ファシリテック(株)	〒808-0027 福岡県北九州市若松区北湊町 9 番 27 号	TEL 093(771)2368



KOMAIHALTEC Inc.

